



eFormMaker
インストールガイド

ウェブフォーム・ワークフロー

X-point

2026/04/08 版

はじめに

◆本書の目的

本書は、X-point のインストールを行う方の為に、インストールの手順と初期設定について説明しています。

◆対象とする読者

本書は「X-point」のフォーム管理者を対象としています。フォーム管理者とは「eFormMaker」によるフォーム作成を行ない、「X-point」のフォーム管理、マスタ管理権限を持つユーザを指します。

◆対応バージョン (2026/04/08 時点)

X-point
X-point v3.13

◆製品名について

本文中、「X-point サーバー」は「X-point」と表記しています。
また、各製品の名称は対応バージョンを省略してある箇所もありますのでご了承ください。

◆商標について

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的の為に複製、配布することはできません。X-point、エクスポイントの名称およびロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Macintosh、MacOS は Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。Adobe、Acrobat、Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc. の商標または登録商標です。ORACLE、Java、JavaScript は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。デスクネッツ、desknet's は株式会社ネオジャパンの登録商標です。サイボウズ、Cybozu はサイボウズ株式会社の登録商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本書では、©、®、(TM) の表示を省略しています。ご了承ください。

◆製作著作

©2021-2026 株式会社エイトレッド

目 次

1	eFormMaker とは.....	4
2	X-point eFormMaker の導入	7
2. 1	導入準備.....	7
2. 2	動作環境.....	7
2. 3	インストールと起動	8
2. 4	アップデート	15
2. 5	ライセンス.....	16
2. 6	アンインストール.....	19
2. 7	User-Agent 設定.....	20
3	X-point eFormMaker の初期設定	21
3. 1	サーバー接続設定	22
3. 2	eFormMaker 環境.....	24
3. 3	クライアント証明書	26

1 eFormMaker とは

フォーム・アプリケーション・サーバ『X-point』の世界へようこそ。

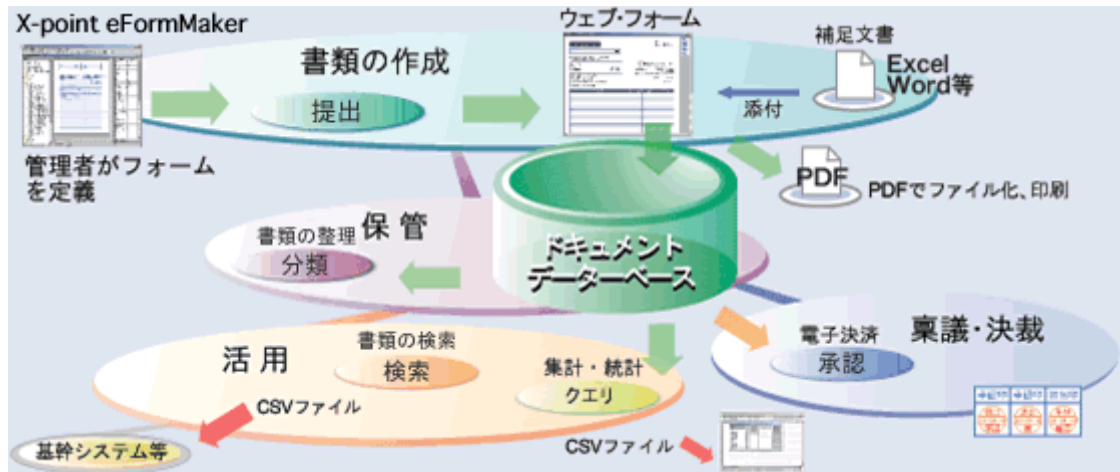
『X-point』は、WEB ブラウザ上で、「まるで紙に書くような」直感的な入力フォームを提供し、フォームの管理機能、およびデータベースとの連携機能等を実現した、「書類管理の新しいスタイル」を提案するフォーム・アプリケーション・サーバです。

フォームを eFormMaker で作成することにより、日本型業務プロセスに対応した本格的なワークフローをはじめ、社内の様々な業務システムの効率化や幅広いデータ活用が手軽に実現できます。

【導入と運用】

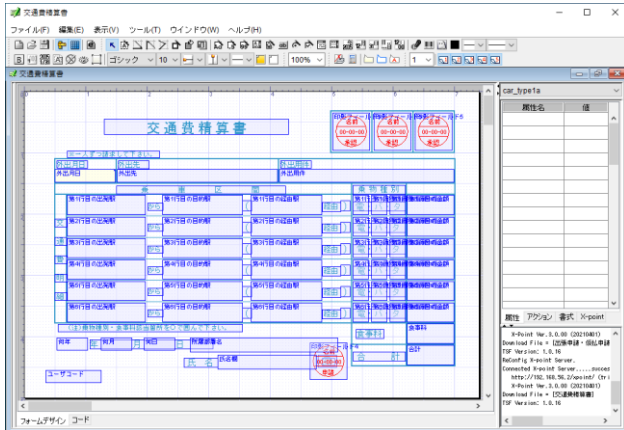
- X-point の直感的な入力フォーム WEB ベースなので、各クライアント PC には、ブラウザがあれば特別なインストールをする必要はありません。
- 入力フォームは、専用デザイナーを使うことで管理者様が自社にあわせたものを作成することが可能です。
- 他システムで管理するユーザアカウントをインポートして使用できるので、短期導入が可能です。

【X-point の全体像】



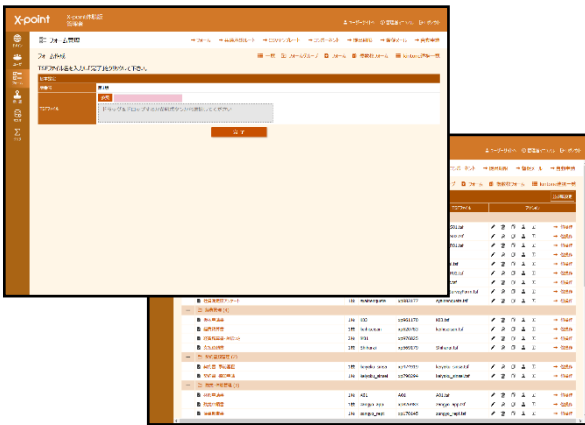
作成したフォームを X-point で利用するまでの流れは、次のようになります。

1) X-point eFormMaker でフォームを定義する



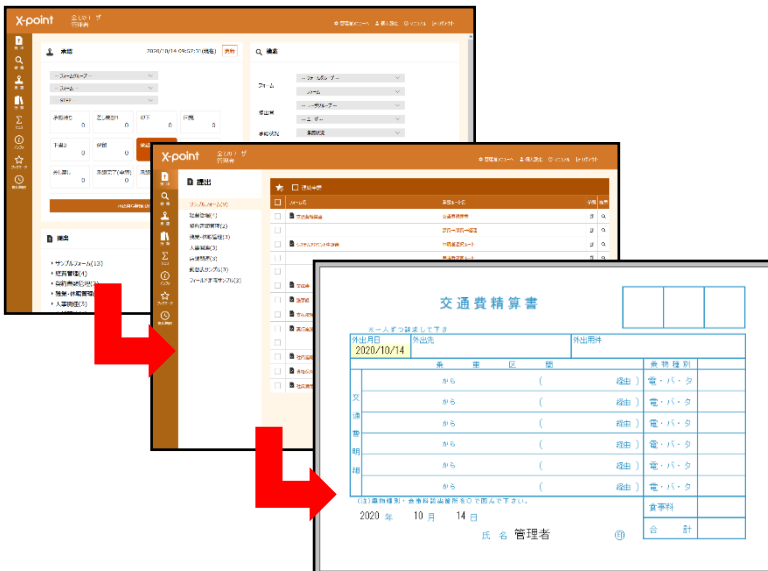
「X-point eFormMaker」を使用してフォームを定義します。フォームは XML をベースとした様式で定義され、TSF という拡張子のファイルが作成されます。

2) X-point (管理者側) にフォームをアップロードし設定を行う



作成した TSF ファイルを、X-point にアップロードしてフォームを作成します。

3) ユーザが X-point でフォームを利用する



ユーザは、X-point ユーザ画面にログインすると、それぞれが利用権限のあるフォームを使用・閲覧することができます。

2 X-point eFormMaker の導入

2. 1 導入準備

X-point のバージョンに対応する最新の eFormMaker をサポートサイトよりダウンロードして下さい。
X-point と eFormMaker の対応バージョンは、それぞれのバージョン番号（ドット「.」やハイフン「-」で区切られた 4 つの数字）で判断します。

例) X-point v3.11.00 に対応する eFormMaker は v3.11.00 です。

！注意事項

- ※ X-point のアップデートにより、クライアント PC に導入済みの eFormMaker を更新インストールする必要が生じる場合があります。
- ※ X-point と eFormMaker のバージョンを揃えていない場合、一部の機能が利用できない場合があります。詳細は各バージョンのリリースノートを確認してください。

2. 2 動作環境

「X-point eFormMaker」を利用する際に必要となるクライアント PC のスペックです。

- OS : Windows 11
- メモリ : 2GB 以上の空き
- HDD : 600MB 以上の空き
- Java : OpenJDK 11 (eFormMaker のインストーラに同梱されています)
- ブラウザ : https://www.atled.jp/document/xpoint/version_xpcloudv3.html をご覧ください。
- その他 : PDF 印刷オプション試用版 (同梱されています)

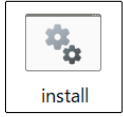
！注意事項

- ※ X-point サーバとの連携機能を利用する場合は、LAN 環境が適切に設定されている必要があります。認証が必要なプロキシサーバーを経由して接続する場合 (プロキシ設定を必要とする場合)、認証の種類により接続できない場合がありますので注意して下さい。(「サーバー接続設定」項を参照)
- ※ ご利用の OS より画面表示が本マニュアルと異なる場合があります。
- ※ 利用するブラウザにより入力フォームの表示に違いが生じる場合があります。詳細は「クロスブラウザ環境 制限事項ガイド」をご覧ください。
- ※ 入力フィールドの IME 切り替え指定は切替に対応するブラウザ以外では動作しません。利用の際はご注意願います。
- ※ PDF プレビューを行うと PDF 全面に「ATLED」と表示されます。これは PDF 印刷オプションが試用版として動作する際の仕様です。運用ライセンスで動作する PDF 印刷オプションの場合は表示されません。(「運用ライセンス」で動作する X-point サーバーに「ATLED」の表示はありません)
- ※ X-point eFormMaker の内蔵プレビュー機能は apache tomcat 4.1.31 を利用しています。
- ※ 『PDF 印刷オプション』は OpenPDF を利用しています。

2. 3 インストールと起動

1) X-point eFormMaker のインストールモジュールを展開します。

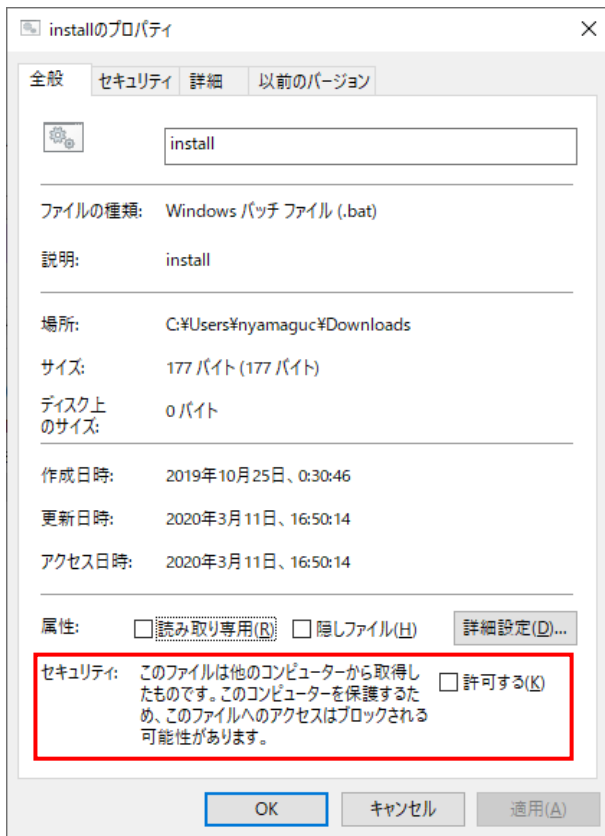
2) `install.bat` をマウスで選択し右クリックから“管理者として実行”します。



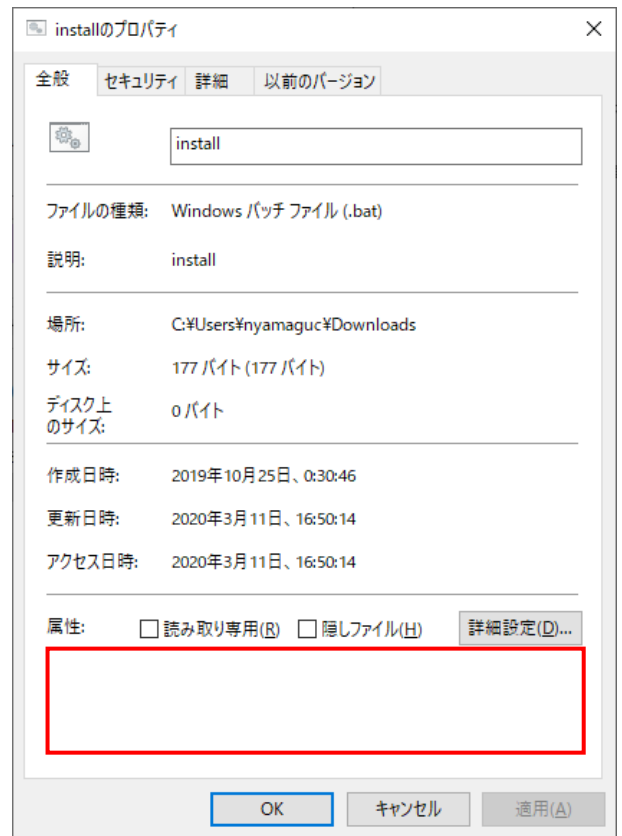
！注意事項

- ※ ダウンロードファイルは必ずローカル・ドライブに展開して下さい。ネットワーク・ドライブに展開するとインストールを行う事ができません。
- ※ “Windows によって PC が保護されました” のメッセージが表示され、プログラムが実行できない場合は、`install.bat` を右クリックから“プロパティ”を開き、「ブロックの解除」を行ってください。

【ブロックの解除】

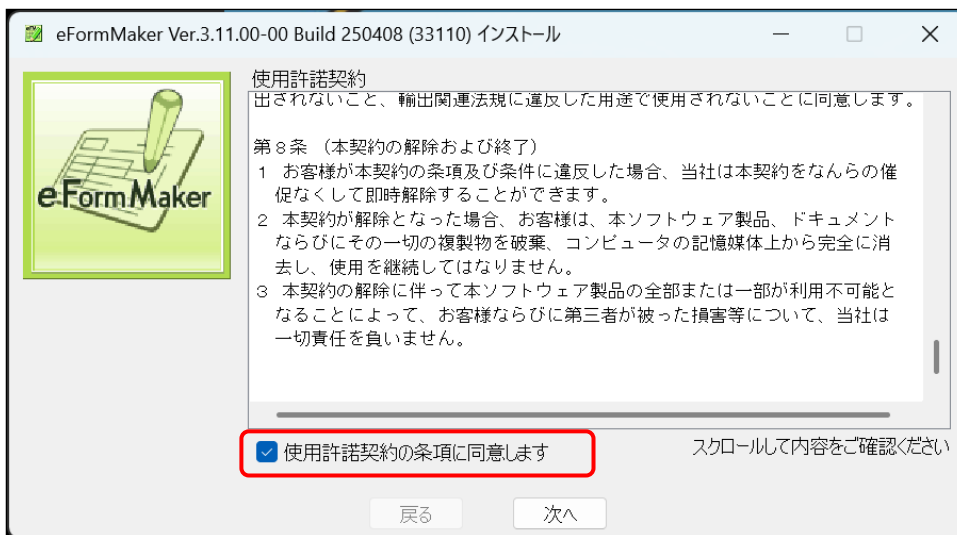
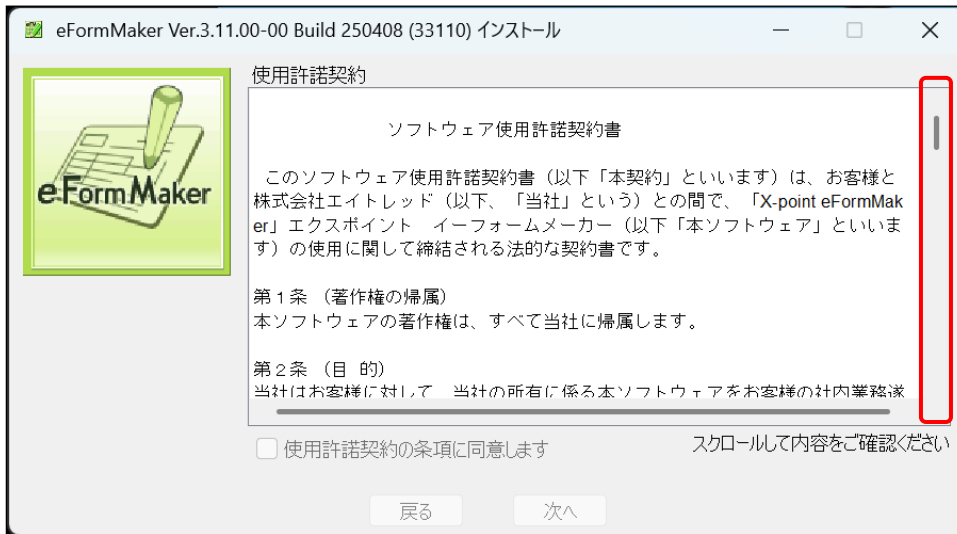


⇒



3) 使用許諾画面が表示されます。

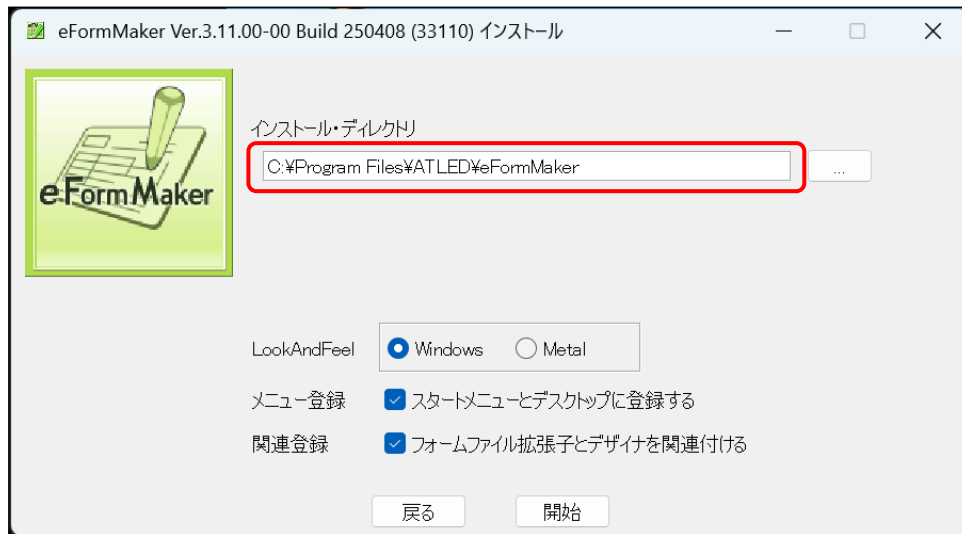
内容をご確認いただき同意できる場合は、下部のチェックボックスをチェックして先に進みます。



画面を最後までスクロールさせるとチェックできるようになります。

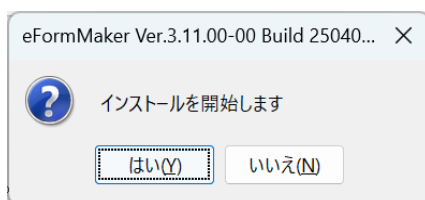
4) インストール・ディレクトリの指定

X-point eFormMaker のインストール先、メニュー登録の実施可否を指定します。

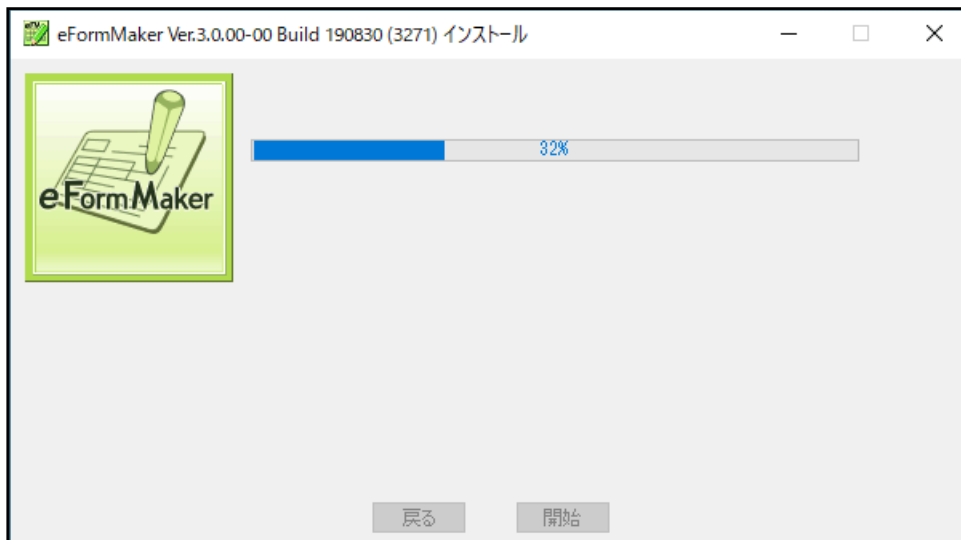


- **インストール・ディレクトリ**
インストールを行うディレクトリを指定します。
規定ディレクトリは **C:¥Program Files¥ATLED¥eFormMaker** になります。
- **LookAndFeel**
変更できません。eFormMaker は必ず “Windows” 指定でインストールされます。
- **メニュー登録**
eFormMaker をスタートメニュー、及びデスクトップ上のアイコンから起動できるようにします。
- **関連登録**
エクスプローラで表示した **TSF** ファイルから eFormMaker を開く事ができるよう、拡張子 “TSF” と eFormMaker を関係づけます。

インストール先などが決まったら、【開始】 ボタンをクリックします。インストール開始ダイアログが表示され「はい」をクリックするとインストールが始まります。

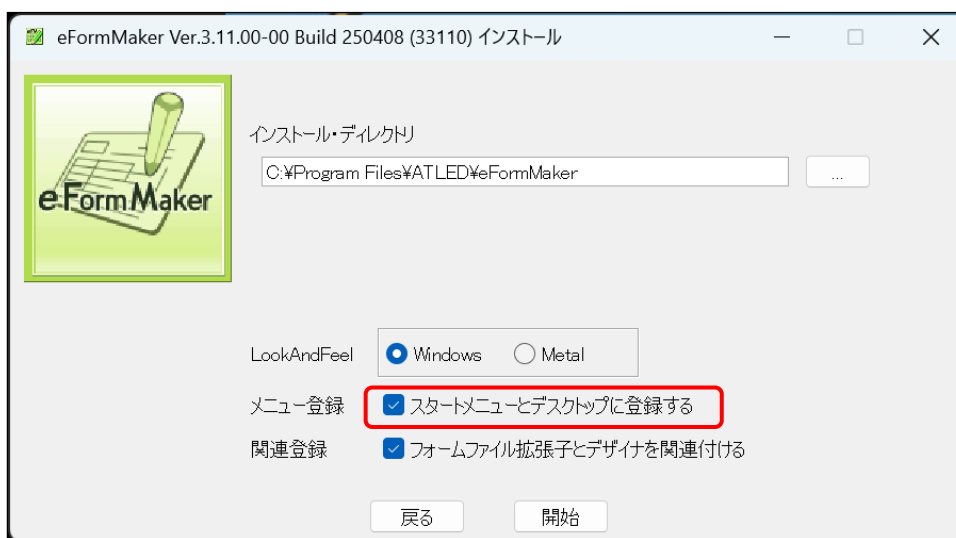


インストール中はプログレスバーが表示されます。インストール時間はクライアント PC の性能により変化します。完了までしばらくお待ち下さい。

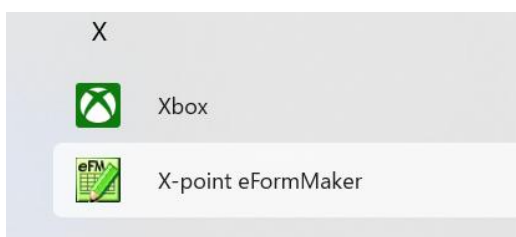


【メニュー登録をチェックすると】

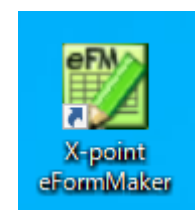
インストール・ディレクトリを指定する際に「スタートメニューとデスクトップに登録する」をチェックすると、スタートメニューとデスクトップに起動用アイコンが登録されます。



【アプリ/スタートメニュー】



【デスクトップ】



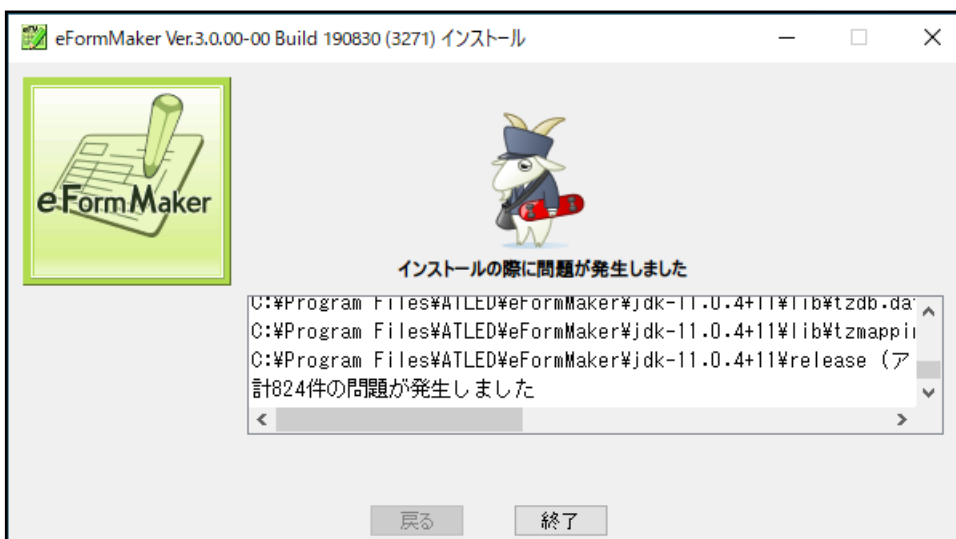
5) 完了

インストールが終了すると完了画面が表示されます。「終了」ボタンをクリックすれば、インストールは完了です。



インストール中に問題が発生するとエラー画面が表示されます。

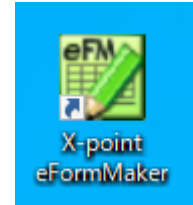
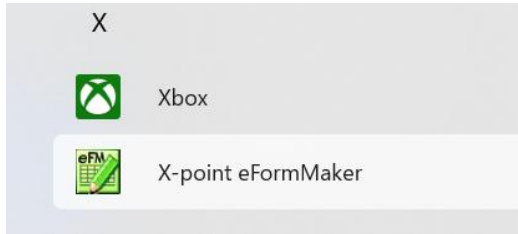
インストール先に指定したフォルダの書き込み権限を確認し、再度インストールを行ってください。



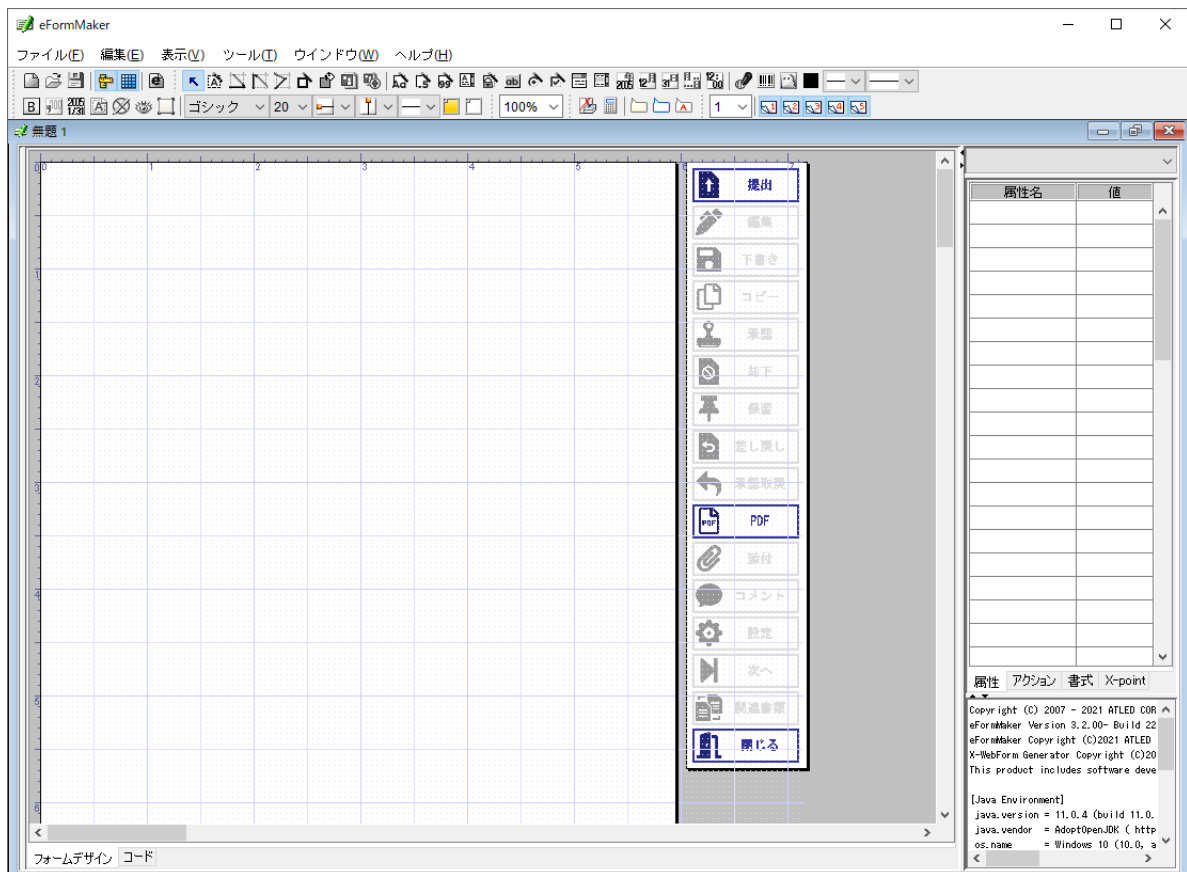
6) X-point eFormMaker の起動

スタートメニューもしくはデスクトップのショートカットを利用して起動を行って下さい。インストールの際にメニュー、ショートカットを登録しなかった場合は、インストール・ディレクトリの eformmakerW.cmd (もしくは、eformmaker.cmd) をダブル・クリックして起動して下さい。

【アプリ/スタートメニューとショートカット】



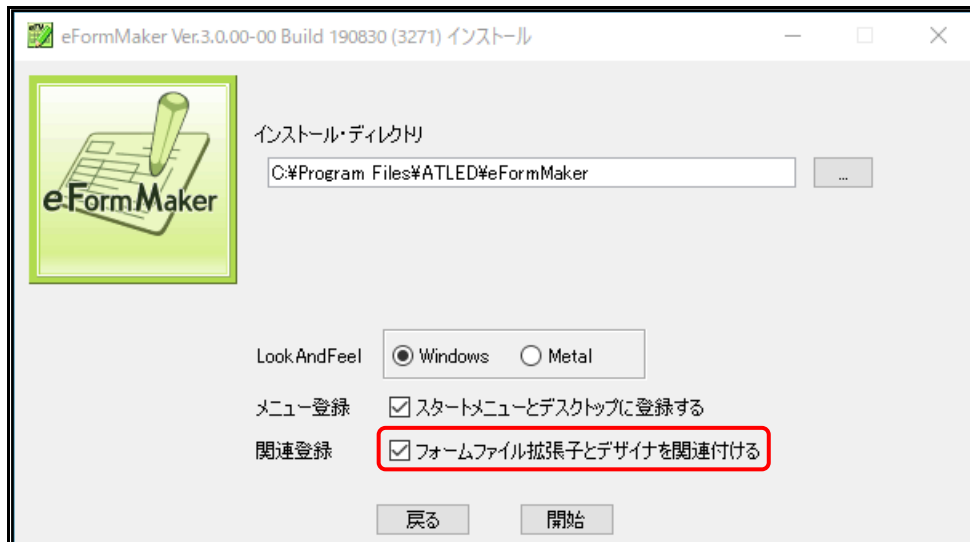
【起動画面】



※ eFormMaker はデスクトップで起動します。

7) ファイルの関連付け

インストール・ディレクトリを指定する際に「フォームファイル拡張子とデザイナを関連付ける」をチェックしておくことで X-point eFormMaker で保存したファイル(拡張子 tsf)をエクスプローラなどからダブル・クリック、もしくは「開く」を行う際に、X-point eFormMaker を起動してフォーム編集を行うことができるようになります。



関連付けが行われると、エクスプローラ等で TSF ファイルの上にマウスカーソルを移動させるとファイルの種類が表示されるようになります。



※ Windows のバージョンによりインストール直後は設定情報が反映されない場合があります。そのような場合、一度ログオフし再度ログインしてください。

2. 4 アップデート

X-point eFormMaker のアップデートは特に指定がある場合を除き、新規インストールと同様の方法で上書きインストールを行います。インストール済みの eFormMaker と異なるディレクトリを指定した場合も、ライセンス情報や設定情報はそのまま引き継がれます。

但し、異なるディレクトリを指定した場合は、スタートメニューやデスクトップ・ショートカットは新たにインストールした eFormMaker 用に書き換えが行われます。

2. 5 ライセンス

X-point eFormMaker には製品ライセンス、試用ライセンスの2種類が用意されています。
試用ライセンスにつきましては販売元に発行をご依頼ください。

1) ライセンスの種類

ライセンスには次の種類がありますので、ご利用に適したライセンスをご利用ください。

1 試用ライセンス

製品の機能を御確認して頂く為のライセンスです。

※ 試用期間中に作成したフォームは正規ライセンスの eFormMaker で引き続き利用出来ます。

※ 試用可能な期間は販売元にご確認下さい。

2 製品ライセンス

X-point eFormMaker の標準ライセンスです。

2) ライセンス情報の登録

初めて X-point eFormMaker を起動する場合、ライセンス期限が過ぎた場合、ライセンス情報に誤りがある場合にライセンスの登録画面が表示されます。

また、試用ライセンスから製品版ライセンスに切り替える際は、[ヘルプ]メニュー > “ライセンス登録” からライセンスの登録画面を表示して “ライセンス キー” を登録します。

■ 試用／製品ライセンスの登録画面

ライセンス情報の確認と更新

登録ユーザID

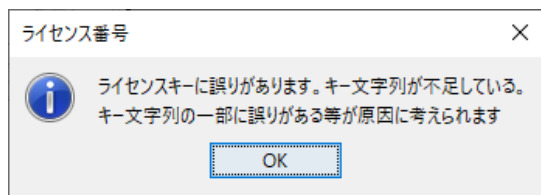
製品名 eFormMaker ライセンス期限 2020 03 31

ライセンス番号 EF6L363133I3 ライセンス種類 EVALUATION

ライセンス キー NgPt.J0F1bs_e01-H-aKUd2Lmy-rhq9jx1eR2fHQSS0ba7JyvSf0y4v50Jq8

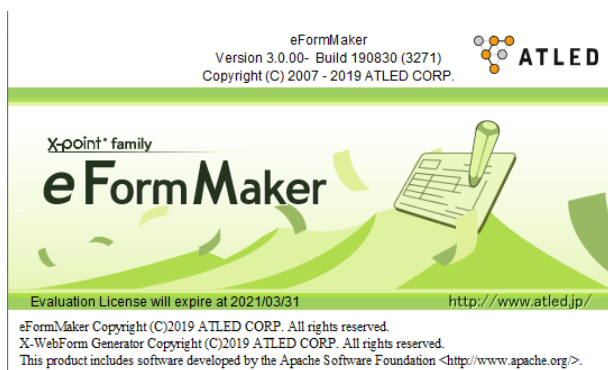
OK Cancel

登録内容に誤りがあるとダイアログが表示され終了します。再度起動して正確に入力してください。

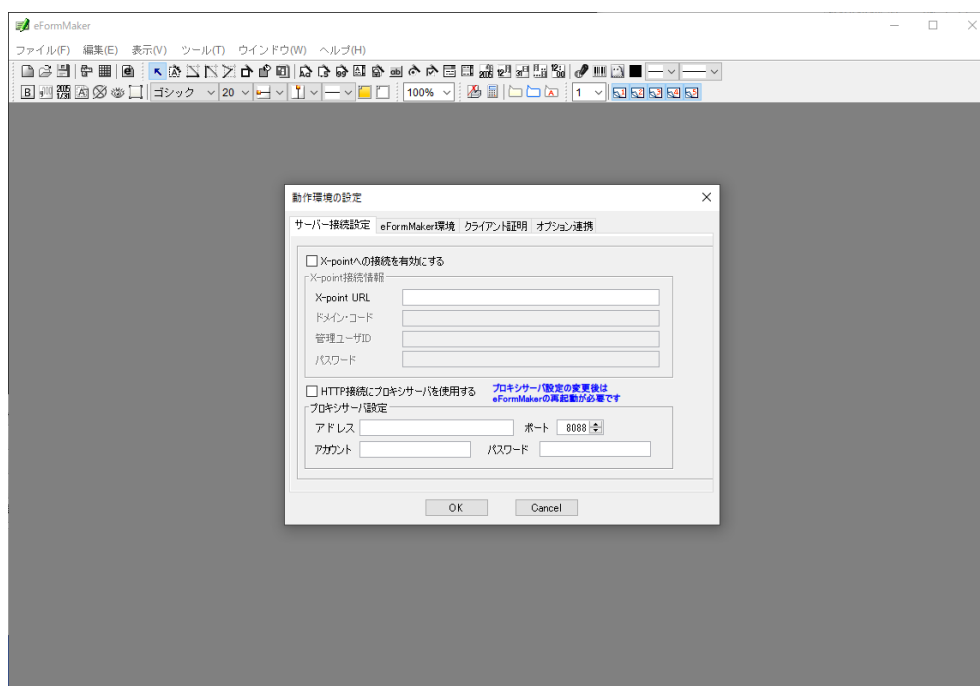


正しいライセンスが登録されると起動画面が表示され、X-point eFormMaker の初期設定画面が表示されます。

【X-point eFormMaker 起動画面】



【初期設定画面】



！ 注意事項

ライセンス情報は登録した Windows OS 単位で有効になります。複数の eFormMaker を 1 台の Windows PC にインストールしても同じライセンスで利用しているとみなされます。動作環境の設定情報は、ユーザアカウント毎に保存されます。

3) その他

eFormMaker を利用中に画面に次のようなメッセージが表示される場合は、eFormMaker のインストール状況の確認を行って下さい。

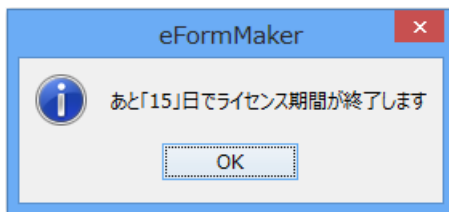
同一ライセンスキーの eFormMaker が
他の PC[nnn. nnn. nnn. nnn]で起動しています

※ 太字部分はご利用の環境により異なります。

このメッセージは、使用中のパソコン以外で同じライセンスキーの eFormMaker が利用されている場合に限り表示されます。他のパソコンで起動している eFormMaker を終了させるとメッセージは表示されなくなります。

また、ライセンス期間終了の 30 日前、15 日前、7 日前から終了日迄の eFormMaker 起動時にライセンス終了を示すメッセージが表示されます。

【表示例】



2. 6 アンインストール

X-point eFormMaker のアンインストールは次の手順で行います。

① ファイル拡張子 “TSF” と eFormMaker の関連付けを削除

- 1) Windows キーを押して「cmd」と入力。
- 2) 「コマンドプロンプト」を右クリックし、「管理者として実行」を選択します。
- 3) eFormMaker のインストールディレクトリに移動します。
デフォルトインストールの場合 “%ProgramFiles%\ATLED\¥eFormMaker” になります。

```
cd /d "%ProgramFiles%\ATLED\¥eFormMaker"
```

- 4) コマンド『designer_ref.vbs uninstall』を実行し関連付けの削除を実行します。

```
designer_ref.vbs uninstall
```

※ 通常「%ProgramFiles%」は「C:\¥Program Files」になります。

② インストール・フォルダ以下を全て削除。

デフォルトインストールの場合 “%ProgramFiles%\ATLED\¥eFormMaker” になります。

③ eFormMaker のライセンス・フォルダ以下を全て削除。

削除対象のフォルダは “%APPDATA%\¥AtIed\¥eFormMaker” です。

※ 通常「%APPDATA%」は「C:\¥Users\¥{ログイン ID}\¥AppData\¥Roaming」になります。

④ デスクトップアイコン、メニューアイコンの削除

以上で、アンインストールは完了です。

2. 7 User-Agent 設定

eFormMaker と X-point の通信は HTTP/HTTPS プロトコルで行われます。通信では **User-Agent** ヘッダに

eFormMaker/3.12.00 (Windows 11;10.0;amd64) Java/11.0.28

が設定され eFormMaker からの通信である事を示す情報が設定されます。3つの情報を含みます。

eFormMaker/3.12.00	(Windows 11;10.0;amd64)	Java/11.0.28
①	②	③

【説明】

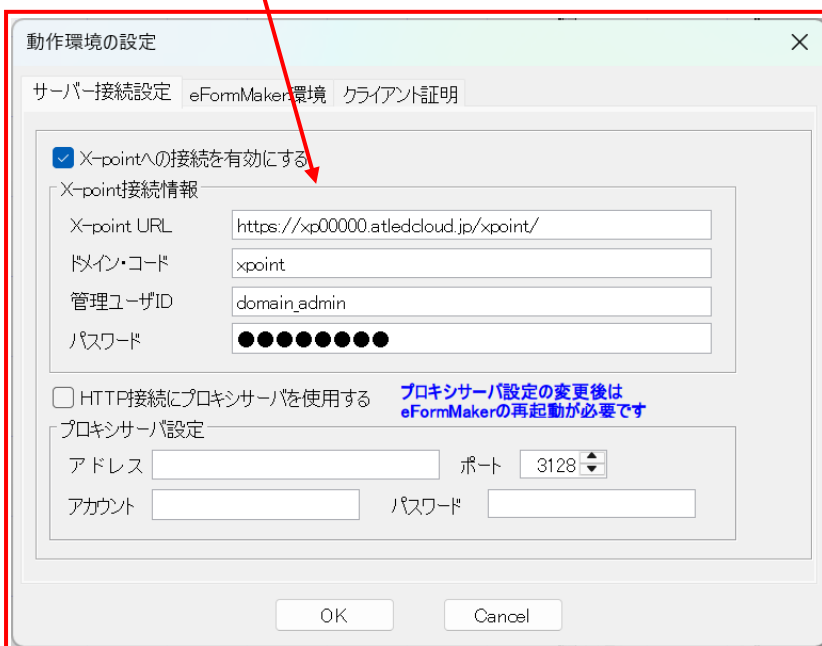
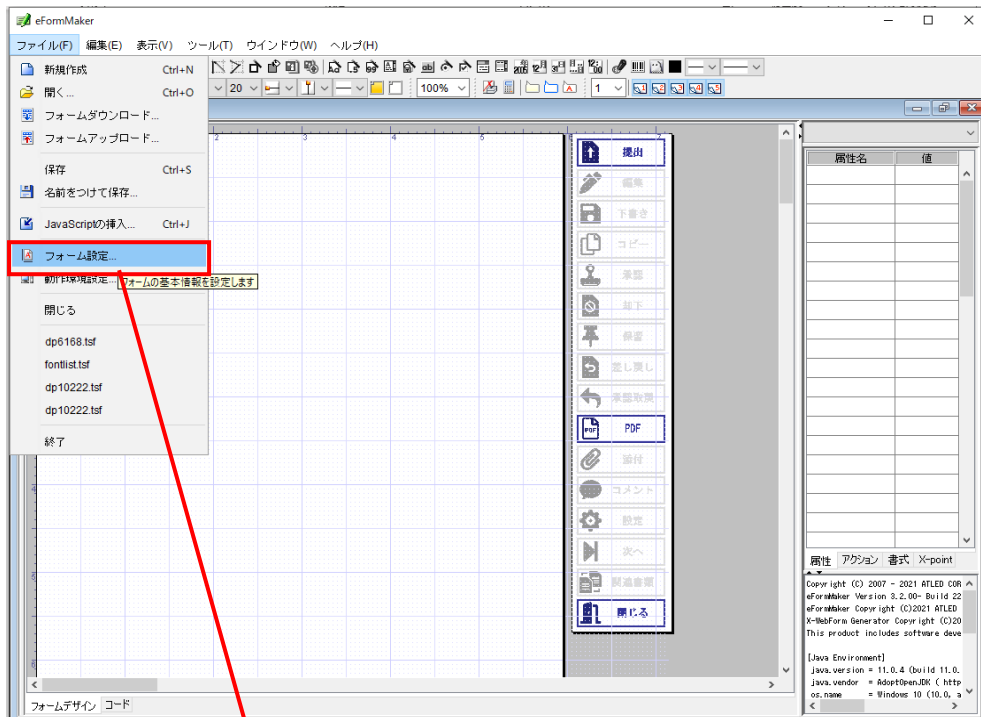
- ① 固定文字「eFormMaker」のあとに区切文字「/」を挟み eFormMaker のバージョン番号
- ② eFormMaker を実行している OS の情報
- ③ eFormMaker を実行している JavaVM のバージョン番号。

JavaVM のバージョン番号は利用する eFormMaker で異なる場合があります。

3 X-point eFormMaker の初期設定

eFormMaker 利用するための初期設定を行います。設定は動作環境設定にて行います。

【起動画面】



3. 1 サーバー接続設定

X-point eFormMaker から、X-point サーバーに接続する為の設定を行います。X-point サーバーの接続情報、プロキシサーバ経由で利用する場合のプロキシ情報を指定します。

- X-point 管理者サイトからのフォームダウンロード
- フォーム連携設定
- X-point コンポーネント設定（印影設定、マスタ参照ウィンドウ設定、自動採番設定）

動作環境の設定

サーバー接続設定 eFormMaker環境 クライアント証明

X-pointへの接続を有効にする

X-point接続情報

X-point URL

ドメイン・コード

管理ユーザID

パスワード

HTTP接続にプロキシサーバを使用する プロキシサーバ設定の変更後はeFormMakerの再起動が必要です

プロキシサーバ設定

アドレス ポート

アカウント パスワード

OK Cancel

① 「X-point への接続を有効にする」

eFormMaker 起動時に「X-point 接続情報」に指定されている X-point サーバーに接続します。

② X-point 接続情報

X-point サーバーへの接続情報を記入します。入力値は設定内容を保存する際にチェックされます。接続に失敗する場合は「X-point への接続を有効にする」をオフにしなければ保存できません。

1) X-point URL

X-point サーバーの URL。利用する X-point サーバーにあわせて設定します。

2) ドメイン・コード

フォーム作成の対象となるドメインのコードを指定します。作成するフォームで利用するコンポーネント等が登録されているドメインになります。

3) ユーザ ID

管理権限を持つ X-point ユーザのログイン名。必要な管理権限は“フォーム管理”、“マスタ管理”の2つです。

4) パスワード

X-point 管理ユーザのパスワード。

③ 「HTTP 接続にプロキシサーバを使用する」

プロキシ設定を有効にする場合にチェックします。

1) アドレス

プロキシサーバのホスト名、IP アドレスを記入します。

2) ポート

プロキシ接続ポート番号を指定します。

3) アカウント/パスワード

認証が必要なプロキシサーバを利用する場合に、アカウント（ユーザ名）とパスワードを指定します。認証は“**ベーシック認証**”のみに対応しています。

認証が不要な場合は空欄にしておきます。

！注意事項

※ 接続情報に指定した内容で接続に失敗する場合は、以下の点を確認して下さい。

- 入力した URL、ドメイン ID、ユーザ ID、パスワードが正しく入力されているか？
- 接続するユーザに“フォーム管理”、“マスタ管理”の管理者権限が付与されているか？
- ネットワーク環境がプロキシサーバ経由ではないか。

プロキシサーバ経由のネットワーク環境の場合は「動作環境設定（ネットワーク設定）」設定を行ってください。

※ 接続先に指定した X-point サーバーのライセンス状態によっては、接続時にライセンスに係わるエラーが表示される事があります。

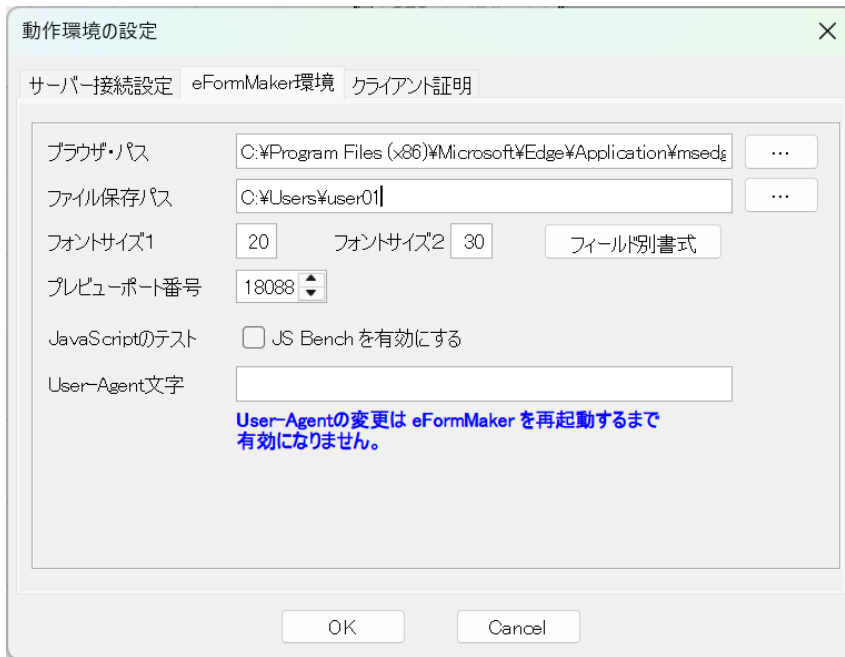
『指定された X-point サーバーの利用ライセンス期間（yyyy/mm/dd）は終了しています。』
X-point サーバーのライセンスが期間指定である場合に表示されます。

※ eFormMaker を実行する環境と X-point サーバーの時刻差が 300 秒以上ある場合、eFormMaker は X-point に接続できません。時刻差に関するエラーが表示された場合はご利用環境の時刻設定を確認してください。

3. 2 eFormMaker 環境

eFormMaker でのフォームプレビューに関する環境を設定します。

1) eFormMaker 動作環境設定 (メニュー【ファイル】→【動作環境設定】)



① ブラウザパス

プレビューの際に使用するブラウザへのパスを指定します。
初期値は、Microsoft Edge へのパスになります。

② ファイル保存パス

ファイルを開く、ファイルを保存する際に利用される初期フォルダパスです。

③ フォント・サイズ 1

テキスト、ラベル等のデフォルトのフォント・サイズを指定します。ラジオボタン、チェックボックスに対しては指定値の反映は行われません。初期値は20です。

④ フォント・サイズ 2

ラジオボタン、チェックボックスのデフォルトフォント・サイズを指定します。初期値は20です。

⑤ フィールド別書式

文字、数値の入力を行なうフィールドの初期書式を変更することができます。変更可能な項目は文字位置 (上下、左右)、文字間隔、上下左右のパディング値です。

⑥ プレビュー・ポート番号

内部サーブレットエンジンが利用するポート番号です。初期値は18088です。

⑦ JavaScript のテスト

チェックするとフォームプレビュー実行時にワークフローフォームで使用する JavaScript をテストする為のパネルがブラウザに表示されるようになります。

JavaScript 開発を行わない場合は OFF にするようにしてください。

！注意事項

V3.10 までの eFormMaker で JS Bench の設定値を Cookie に保存 (📁) していた場合、V3.11 以降の eFormMaker で表示する際に設定値の文字化けが発生します。文字化けが発生した場合は「初期値を再設定する」(📄) を実行し、必要な項目の再設定を行ってください。

⑧ User-Agent

X-point と HTTP/HTTPS プロトコルで通信する際に HTTP ヘッダに指定する文字列に、任意文字列を追加する事が出来ます。(参照「2. 7 User-Agent 設定」)

※背景 PDF 機能を利用する場合、利用する PDF の基準座標が PDF の左下になければなりません。

“Adobe Illustrator” など座標指定が可能なソフトウェアで PDF を作成する場合は注意してください。

3. 3 クライアント証明書

「eFormMaker 環境」タブで指定する X-point サーバーの接続にクライアント証明が必要である場合に証明ファイルと秘密鍵(パスワード)の指定を行います。登録可能なファイルは“PKCS (Public-Key Cryptography Standards) バージョン 1.0” (PKCS #12)のみです。

動作環境の設定

サーバー接続設定 eFormMaker環境 クライアント証明

クライアント証明書

登録ファイル ...

パスワード 登録

証明書ファイル 削除

証明書名

発行者名

シリアル番号

発効日 有効期限

「証明書」は登録・削除をクリックすると直ちに反映されます。
Cancel操作で元に戻る事はありません。

OK Cancel

① 登録ファイル

eFormMaker に登録する【クライアント証明書】ファイルのパスを指定します。

② パスワード

【クライアント証明書】ファイルに指定された秘密鍵(パスワード)を指定します。
入力したパスワードは“●”で表示されます。

③ 証明書ファイル

登録済みのファイル名を表示します。ファイルは一つのみ登録できます。

④ 証明書名

【クライアント証明書】に記録されている証明書名を表示します。

⑤ 発行者名

【クライアント証明書】に記録されている発行者名を表示します。

⑥ シリアル番号

【クライアント証明書】に記録されているシリアル番号を表示します。

⑦ 発効日

【クライアント証明書】を作成した発効日を表示します。

⑧ 有効期限

【クライアント証明書】に記録されている有効期限を表示します。

⑨ 【登録】

指定された登録ファイルを eFormMaker に取り込みます、同時にパスワードの妥当性を調べます。

⑩ 【削除】

登録されている【クライアント証明書】を削除します。

証明書の登録

登録ファイル、パスワードを指定し【登録】をクリックします。

動作環境の設定

サーバー接続設定 eFormMaker環境 クライアント証明

①クライアント証明書

登録ファイル C:\Users#\u01#Downloads#R1026593.pfx

②パスワード

③登録

証明書ファイル

証明書名

発行者名

シリアル番号

発効日 有効期限

「証明書」は登録・削除をクリックすると直ちに反映されます。
Cancel操作で元に戻る事はありません。

OK Cancel

登録が完了するとパスワード以下の欄に【クライアント証明書】の内容が表示されます。

動作環境の設定

サーバー接続設定 eFormMaker環境 クライアント証明

クライアント証明書

登録ファイル C:\Users#\u01#Downloads#R1026593.pfx

パスワード

証明書ファイル R1026593.pfx

証明書名 "<20200311_131834>relay

発行者名 ""Cybozu

シリアル番号 d5

発効日 2020/03/11 有効期限 2040/03/06

登録

削除

「証明書」は登録・削除をクリックすると直ちに反映されます。
Cancel操作で元に戻る事はありません。

OK Cancel

証明書削除

【削除】をクリックして登録したクライアント証明書を削除します。

動作環境の設定

サーバー接続設定 eFormMaker環境 クライアント証明

クライアント証明書

登録ファイル C:\Users#\u01\Downloads\R1026593.pfx

パスワード ●●●●●●●●

証明書ファイル R1026593.pfx

証明書名 "<20200311_131834>relay

発行者名 "Cybozu

シリアル番号 d5

発効日 2020/03/11 有効期限 2040/03/08

登録 削除

「証明書」は登録・削除をクリックすると直ちに反映されます。
Cancel操作で元に戻る事はありません。

OK Cancel

■改訂履歴

改版	改版内容
2024年8月6日版	初版
2025年10月22日版	「2.7 User-Agent 設定」を追加
2026年2月2日版	「2.2 動作環境」のO/SからWindows 10を削除
2026年4月08日版	「2.6 アンインストール」にカレントディレクトリの変更コマンドを追加

製作著作

©2021-2026 株式会社エイトレッド

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的の為に複製、配布することはできません。X-point、エクスポイントの名称及びロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Macintosh、MacOS は Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。Adobe、Acrobat、Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc.の商標または登録商標です。Java は Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本ガイドでは、©、®、(TM) の表示を省略しています。ご了承ください。